



Data

監督・脚本・製作: ジョーダン・ピール

出演: ダニエル・カルーヤ/アリソン・ウィリアムズ/ブラッド・リー・ウィットフォード/ケイ・イレブ・ランドリー・ジョーンズ/キャサリン・キーナー/マーカス・ヘンダーソン/ベッティ・ガブリエル/レイ・キース・スタンフィールド/リルレル・ハウリー

👁️👁️ みどころ

黒人差別を描く映画は多いが、黒人初の大統領まで登場した昨今のアメリカでは、娘の恋人として黒人青年を受け入れる両親も急増中・・・？

本作を見る限り、アーミテージ家はそうらしいが、そこで働く2人の黒人の使用人はかなりヘン。さらに、パーティに集まった白人たちもかなりヘン・・・。そこでは一体何が行われているの？

白人の娘が黒人の恋人を実家に連れてくるのは、『招かれざる客』（67年）のプロットと同じだが、本作はそこにコメディ的要素が入るうえ、後半からはホラー映画に大きくサマ変わり。結果オーライに、ほっと胸をなで下ろしたが、今なお続く黒人差別のあれこれにビックリ！



■□■古くはアンクルトムの小屋。黒人差別の今は？■□■

近時のハリウッド映画でも依然として、黒人差別をテーマにした映画は多い。しかし、本作冒頭にみる写真家の黒人青年クリス・ワシントン（ダニエル・カルーヤ）とその恋人である白人女性ローズ・アーミテージ（アリソン・ウィリアムズ）のアツアツぶりを見ると、アメリカにはもはや黒人差別はなくなった、と感じてしまう。

もっとも、これからローズの実家に行こうとするクリスは、ローズの両親や家族が「本当に黒人の俺を娘の恋人として差別しないで受け入れてくれるのか」という不安でいっぱい。そこで、クリスが「俺が黒人であることを家族に言ったのか？」と質問すると、「まだ言っていない」とのこと。しかし、ローズの言葉によれば、「私のパパもママも差別主義者じゃないし、オバマの3期目があれば、オバマに投票すると言っていたもん」と至って楽

観的でアッケラカンとしていた。ホントにそうならいいのだが・・・。

■□■黒人青年が白人の恋人の家族に会いに行く不安は？■□■

第88回アカデミー賞が「白すぎるオスカー」と呼ばれたことへの反動として(？)、翌年の第89回アカデミー賞では『ムーンライト』(16年)、『Fences』(16年)が、作品賞や黒人女優のヴィオラ・デイヴィスが助演女優賞を受賞した。しかし、2016年11月のアメリカ大統領選挙では、黒人初の大統領だったバラク・オバマの「後継者」とされたヒラリー・クリントンが、共和党のドナルド・トランプに敗れるという大番狂わせが発生した。本作では、ローズが言っていたとおり、アーミテージ家の広大なお屋敷にローズと共に赴いたクリスに対して、脳神経外科医の父親ディーン・アーミテージ(ブラッドリー・ウィットフォード)、精神科医の母親ミッシェル(キャサリン・キーナー)、柔術を駆使するスポーツマンの弟ジェレミー(ケイレブ・ランドリー・ジョーンズ)は、一様に大歓迎。しかも、ローズの父親に至っては「もしオバマの3期目があれば、私は彼に投票した」という印象的なセリフが現実に登場するが、・・・。

■□■この奇妙な雰囲気は一体ナニ？■□■

アーミテージ家における父親のディーン、母親のミッシェル、弟のジェレミーの歓迎ぶりにクリスは安心してたが、気になるのは黒人の使用人である男性のウォルター(マーカス・ヘンダーソン)と女性のジョージナ(ベッティ・ガブリエル)。この2人のクリスに対する態度はどう見てもヘンだ。さらに、精神科医という母親が禁煙のため催眠療法を勧める姿勢も医者としての一線を越えていないの・・・？また、週末にアーミテージ家で開催される大パーティをローズが忘れていたというのも何かヘン。しつこくそのパーティに参加したクリスは、金持ちで老人ばかりの白人たちへの対応にうんざり。そこに唯一出席していた黒人の招待客が、ローガン(レイキース・スタンフォード)だが、クリスがローガンに声をかけると、この男もかなりヘン。要するにアーミテージ家の人間とその周辺の間はローズ以外全員ヘンなわけだ。クリスはそんな状況を逐一友人で、クリスの留守中愛犬の面倒をみてもらっているロッド・ウィリアム(リルレル・ハウリー)にスマホで連絡していたが、ある日、このスマホのコンセントが切られていたから、アレレ。一体その犯人は誰？そして、アーミテージ家に全体に広がるこの奇妙な雰囲気は一体ナニ？

■□■奴隷の売買は今でもあり？そんなバカな・・・■□■

『アミスタッド』(97年)(『シネマルーム1』43頁参照)では、黒人奴隷の売買が公開のオークションで行われていたが、オバマ大統領が登場した近時のアメリカでは、そんな姿をみることはありえない。そう思っていたが、アーミテージ家のパーティでは、ビンゴゲームの他、クリスの大きな写真を前にして何かの公開オークションが行われていたか

ら、アレレ。これは一体ナニ？

他方、嫌々ながらに受けたミッシェ独特の催眠療法によって、クリスは見事に禁煙に成功。クリスはそれを怪我の功名としてロッドに報告していたが、ロッドからはそれ自体を「お前が畏にはまってる証拠だ」と警告されていた。さて、その真偽は？

本作中盤に見る、夜中の散歩や謎のオークション以降、アーミテージ家全体を覆っていたあの奇妙な雰囲気の実態が少しずつ明らかにされてくるので、それに注目！もつとも、それがわかった時には既に、クリスはとんでもなく危機的な状況に！

■□■後半からは恐い恐い「ホラー映画」に！■□■

本作のチラシには、拘束されて椅子に座らされたクリスが恐怖におののいている姿が写ってるが、これは一体ナニ？私は基本的にはホラー映画が嫌いだから、今年全米でNO. 1ヒットしたという『イット それが見えたら終わり』（17年）も観ていない。しかし、本作も後半からはそれと同じような（？）ホラー映画に変身していくので、それに注目！さらに、アーミテージ家の2人の黒人使用人やローズの父親、母親、弟たちの奇妙さは織り込み済みだったが、後半からクライマックスにかけては、何とローズまで大変身してしまうので、それにも注目！

アーミテージ家からの「脱出」を決意したクリスを見て、大いに動揺していたローズだったが、2人の心の交流のおかげ（？）で、ローズもそれなりの理由をつけて明朝の早期出発を同意。それに向けて急いで準備している中、クリスは収納庫の中にあっただ数

枚の写真を発見。すると、そこには、黒人のローガンやジョージナ、ウォルターと恋人のように仲良く写っているローズの姿が……。ひょっとしてローズはこれまでに何人も黒人と恋人に……。こりゃ、一体ナニ？

そんな疑惑（恐怖？）の中、クリスは急いでローズと共に車に乗り込もうとしたが、なぜかローズは車のキーがなかなか見つからないらしい。しかし、そんなことってあるの……。？そう思い、イライラし、ついクリスは大きな声を出したが、そこで遂にローズも本性を暴露してくることに……。さあ、そこからはじまるホラー的展開はいかに……。？

■□■これ以上のネタバレはダメ！■□■

本作のチラシには、「全米初登場NO. 1大ヒット！ 米映画レビューサイト99%大絶賛」の文字が躍っている。本作がそうなったのは、黒人差別という重いテーマとしながら、同時にコメディ的要素とホラー的要素を巧みに入れ込んだためだ。

黒人青年が白人の恋人の家族を訪れるという物語の設定は、かつての『招かれざる客』（67年）と同じだが、時代が50年も経てば、黒人青年を受け入れる娘の両親たちの対応も大きく変わっているのは当然。本作の結末を見れば、ローズの父親がほんとにオバマ大統領に投票していたのかどうかは疑わしいが、本作に見るローズの父親像や母親像の描き方

は絶品だ。催眠療法のバカバカしさ（インチキ性）や、眠り（谷）に落ちてしまう映像処理等は映画独特のものだが、黒人差別の実態を追った本作は『招かれざる客』と同じように鋭いものがある。しかも、それにコメディ色とホラー色を交えたのは絶妙だ。ジョージ・ピールの脚本に大きな拍手を送りたい。

2017（平成29）年11月16日記